

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講準備については必修であるためと全員が回答している。</p>
---	------------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>助産師として基本となる科目であり、国家試験の重要科目であるが、成績は平均85.2点であり、80点以上が75%であった。科目の目標は達成できた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的に妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

現行のカリキュラム上、この方法を継続するしかないが、その中でも「学習のための情報利用」「図書館・インターネット利用」については本年度は新型コロナで思い通りに利用できなかったが、次年度は工夫し、改善する予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

助産学の基盤となり国家試験のためにも重要な科目であり、科目としては学生の成績も良好で目標は達成できているが、限られた時間の中でも「学習のための情報利用」「図書館・インターネット利用」を学生が積極的に行うように次年度は工夫し、改善する予定である。次年度も新型コロナの影響を受けるようであれば、コロナ対応も併せて検討する必要がある。

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産別科は全員が資格取得を目指している。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。また、本科目は理論領域であり実習や専門科目を支援する基礎科目である。</p> <p>②技術演習（医師が担当）では、超音波検査の演習を行っている。現在、ほとんどの病院やクリニックで、妊婦健診の際、医師外来および助産師外来で超音波検査を実施している。実習を考慮し、より実践に近い授業の組み立てを行っている。</p> <p>③基礎的な病態生理や症例の実際を視覚的にもわかるように講義資料や内容の工夫などを行い、学生の理解に努めている。講義のほとんどが遠隔授業であったが、その中でも学びの環境を工夫することの大切さを感じた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は77.12 (±8.18) であり、昨年の数値71.87(±7.23) よりやや上昇した。標準レベルに達した学生は6名、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生は8名であった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが、専門性のレベルは高いといえる。クラスの50%の学生が理想的レベルに達しており、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組んだ結果ではないかと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 ほぼ全員が欠席することなく、講義や演習に取り組んでいた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達しており、内容的には妥当性であったとする。</p> <p>以上から、内容的に妥当であるとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。他教科との課題の調整などを考慮しても、助産別科の授業は集中講義であるため、どうしても課題等が重なることがある。学生がより余裕をもって、授業の課題に取り組んだり、準備をしやすいように、事前に講義資料を配布するなどの工夫を行っていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の専門科目である。成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生の努力がうかがえる。今後、学生が学習時間の確保ができるように引き続き、他教科と調整を図るとともに、基礎科目として持続的に学習に取り組めるよう支援していききたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられている。前半は周産期の心理、マタニティサイクルの心理的特性、母性・父性の意識と親役割の獲得と関係の形成、マタニティサイクルにおけるメンタルヘルスの重要性と課題について解説した。後半は女性がライフサイクルの中で乗り越えるべき発達課題についての講義を行った。1年後に助産師として出会う妊産婦とその家族を理解し支援するために、周産期に女性と家族が直面する問題やリスクを紹介し、その心理的プロセスについて解説した。本年度は遠隔授業であったため、講義の感想および質問を提出してもらい、質問に関しては次回の講義で解説していった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は74.8(±8.17)であり、昨年度の数値78.5(±6.39)と比較するとやや下降したものの、標準的な数値を示していた。学ぶ講義の際の質問など多数寄せられており、意欲の向上に寄与したと考えられることから、本科目の目標をある程度は達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の基礎科目に位置づけられており、その内容は学科のDP1、DP2、DP3に対応している。またCPとも合致した内容となっていると考えられるため、内容的に妥当であると言える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は助産別科の中では基礎科目に位置づけられており講義の形式をとっているが、限られた時間の中で親役割や母子関係・父子関係のプロセス、青年期～老年期の発達過程、周産期における女性と家族の心理など、教授するテーマは多岐にわたっているため、授業時間内に学生同士の話し合いの時間や質疑応答の時間を設けることは難しかった。次年度はカリキュラムの改正もあること、また現在、周産期におけるメンタルヘルスは重要視されていることから、今後も現場の実態に即した授業内容を伝えていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>成績や学生の到達度に関する自己評価から、本科目の目標はある程度達成できたと考えられる。本授業は、次年度はオムニバス方式で講義予定である。各担当との連携をとりながら、より学生が学びを深めることのできる講義を目指したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。今年度は「関心のある内容である」が7.1%と昨年度の62%に比較しかなり低かった。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。</p> <p>②栄養学科同様、スライド資料を作成し事前にクラスルーム上にUPした。資料にはポイントを書き写すことのできるスペース等も設けた。</p> <p>③学修準備性に関しては、約20%の学生が予習・復習をやってないと回答している。昨年度、助産別科の学生に対しても、予習課題や復習テストの導入を検討する必要があると考えていたが、全8回の実習を含めた講義回数では、テストを導入する時間はなく、また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間（修了後も）に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている、今後もそのようにしていく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が18.8%、B(優)が50%と多く、C(良)31.3%であり、優および良の割合がとても多かった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、69%に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが7割に近いことは、結果として本科目受講に対する意欲の高さうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約20%の学生が予習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、20%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている（例：長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等）。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は71%と高かった。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなばならないため、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく予定である。また、「楽しく講義を受講できた。」との意見も多く、他分野の学生でも楽しく聞けて、今後の仕事に活かすことが出来るような講義を続けたいと考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性の健康支援論	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、女性のライフサイクル各期における健康問題とその支援について学び、女性の支援者としての助産師の役割を学ぶことを目的としている。周産期・乳幼児期・学童期を除くすべての女性に対する助産師の役割を考える機会となることを意図し、専門科目ではあるが学期の初めに講義を組んだ。また、事前に課題を提示し、基本的な知識をふまえて講義に臨むよう意図した。その後、内容ごとに小テストを実施し知識の定着を図った。</p> <p>その他、ライフサイクルにおける特徴と支援について講義をすすめ、ディスカッションの時間を設けた。そのため、評価についてもディスカッションやレポートを重視することにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が、予習復習に時間をとり、学習に取り組んでいた。</p> <p>最終的な成績の平均値は75点であり、再試対象者は0名であり全員が標準レベルに達していた。</p> <p>DP別にみると、知識理解に関しては72%、関心意欲に関しては77%であった。ディスカッションでは、他者の意見をふまえて建設的意見交換が行えており、関心の深さがうかがえた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であり、健やかな女性のライフサイクル支援を主とする科目の一つである。ライフサイクル各期の女性に関する知識理解はもちろん思考判断をふまえたうえで、関心を持って自らの意見をまとめ他者に発信し、より具体的な助産師の役割を見出していくためには必須である。講義や演習には意欲的に取り組んでおり目標到達もできていることから、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>周産期を学ぶうえで、ライフサイクルにおける女性の特徴や看護を理解することは重要であることから講義の時期や内容は適切であったと考える。 次年度より新しい科目として、ウイメンズヘルスを学ぶことになるが、今後も、より社会的な問題や話題に目を向け、助産師としての視野を広げるためにも、調べ学習や意見交換などの機会をもうけ、アウトプットできる機会を増やすことで、お互いの学びを深められるような工夫をしていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>アンケートの結果から客観的な評価は不明であるが、講義における評価より目標は達成できたと考える。 短期間で集中的に行われる講義であるが、今後も、より社会的な問題や話題に目を向け、助産師としての視野を広げられるような講義内容を検討していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合看護学	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度も、学生が達成すべき行動目標2に関して、協同学習における話し合いスキルの基本といわれる傾聴とミラーリングの手法を取り入れ、学生の観察力・情報収集能力のスキルアップを目指した。なお、事前に、医療・看護倫理について学び医療者としての対象とのかかわりの中で大切な倫理的視点をふまえたうえで、対象とのコミュニケーションについて取り組めるように意図した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。DP別にみると、知識理解に関しては84%、関心意欲に関しては87%であった。授業中は、ディスカッションやロールプレイを通して他者の意見を傾聴し、その意味を理解したうえで発言することの必要性に気づくことができている、他者との交流にも関心を持って臨むことにつながったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「支援科目」である。選択科目であるが、全ての科目を学ぶ上で必要な看護の機能や役割・倫理規定および看護に必要なコミュニケーションスキルを改めて学ぶことを学生が到達すべき目標に挙げていることから、知識理解を充実させ、関心意欲をもって取り組む姿勢は必要である。DP別の得点でも理想的レベルに達していたことから、内容的には妥当性があったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>今年度も、看護者としての倫理的な知識を学んだうえで、コミュニケーション技術の一つである傾聴とミラーリングの手法を取り入れ、学生の観察力・情報収集能力のスキルアップを目指した。さらに、ロールプレイを取り入れることで、他者の意見を理解し、さらに自身の意見を他者に伝えることの必要性に気づくことを目指した。その結果、全員の学生が理想的レベルに達することができた要因の一つとなったと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>全員が目標に到達することができた。</p>
-------------------------------	--------------------------

リフレクションカード 2021年度前期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は必修科目であり、助産別科の学生すべてが受講する。受講動機については、92.9%の学生が「必修科目である」と答えており、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」、「単位数を確保する」と答えた学生の割合はそれぞれ7.1%、14.3%、21.4%であった。</p> <p>妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており（特に海外において）、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。</p> <p>昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は80.8（±7.6）点であった。成績分布別にみると、90点以上が13%、89～80点が37%、79～70点が50%であった。全員が標準的レベルに達しており、50%の学生が理想的レベルに達していた。</p> <p>学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「わりにそうだと思う」が50%、「まあまあそうだと思う」が50%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.5）。</p> <p>「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が50%、「わりにそう思う」が50%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0～4.5）。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考えている。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が4.0～5.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。しかしながら、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生の割合はそれぞれ約100%、50%であった。また、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は50%であった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>目標は概ね達成できたと考えている。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。</p>
-------------------------------	--